



2026年9月期 第2四半期（中間期）決算説明

株式会社 丸山製作所

代表取締役社長 内山剛治

次の100年を創る  
-All for the Future-



## 目次

1. 2026年9月期 第2四半期業績概要 P. 2
2. 2026年9月期 業績・配当予想 P.12
3. その他資料 P.22  
財務諸表 等



# 1 2026年9月期 第2四半期 業績概要

【2025年10月1日～2026年3月31日】

## 2 2026年9月期 業績・配当予想

【2025年10月1日～2026年9月30日】

## 3 その他資料

財務諸表等

# 2026年9月期 第2四半期 業績概要

単位：百万円	2025年9月期 第2四半期 実績		2026年9月期 通期予想	2026年9月期 第2四半期実績				
	金額	売上高 比率		金額	金額	前年同期比		売上高 比率
						増減額	増減率	
売上高	18,302	—	42,000	20,349	2,046	11.2%	—	
営業利益	△24	—	1,500	729	753	—	3.5%	
経常利益	24	0.1%	1,500	761	736	2,954.2%	3.7%	
当期純利益	△18	—	900	427	446	—	2.0%	
為替レート 米ドル	152円		145円	155円				
為替レート ユーロ	161円		160円	181円				

## 経済

- ・ 雇用・所得環境の改善など効果により緩やかな回復基調
- ・ 中東情勢の影響などによる金融資本市場の変動やサプライチェーンの混乱
- ・ 原材料の高騰

## 変動要因

- 【日本】 ・ 米卸売価格の高騰を背景とした農業用機械全般への需要増
- 【海外】 ・ タイ 刈払機新製品の販売が好調

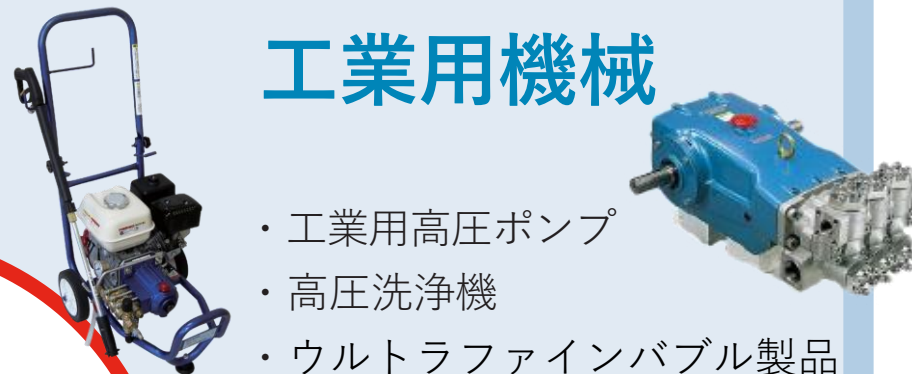
## 農林業用機械

- ・ 動力噴霧機
- ・ 動力散布機
- ・ 大型防除機
- ・ 刈払機
- ・ チェンソー
- ・ その他



## 工業用機械

- ・ 工業用高圧ポンプ
- ・ 高圧洗浄機
- ・ ウルトラファインバブル製品



## その他の機械

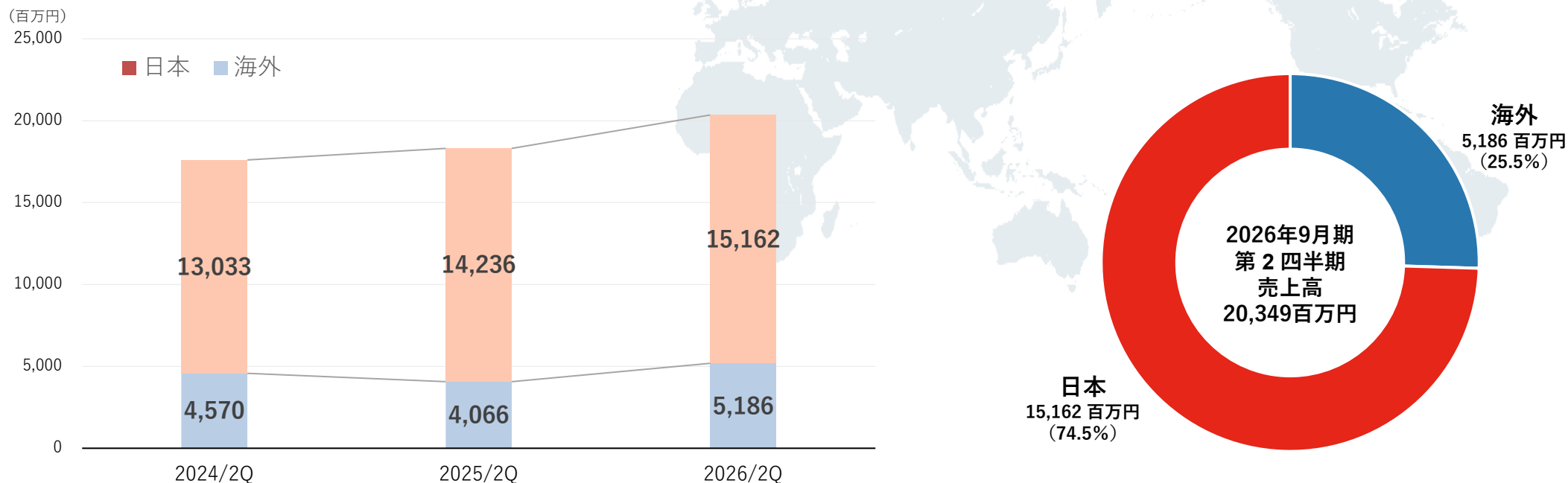
- ・ 消火器
- ・ 防災関連機器
- ・ その他



## 不動産賃貸他

- ・ 不動産賃貸
- ・ 売電事業

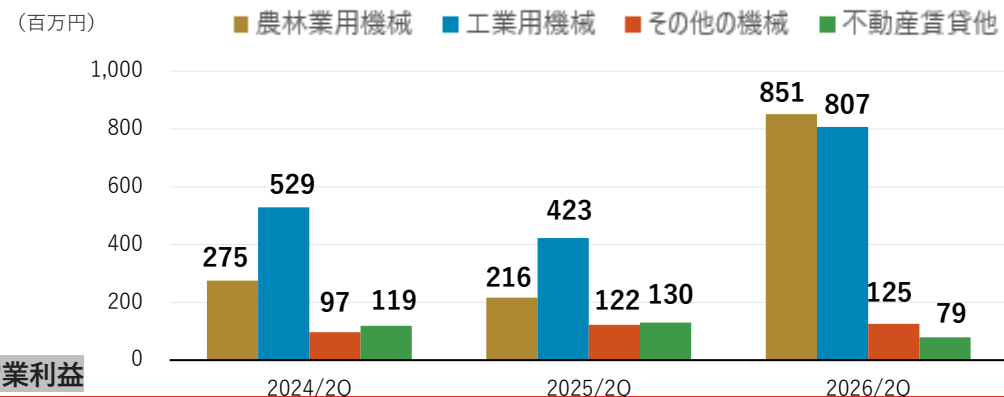
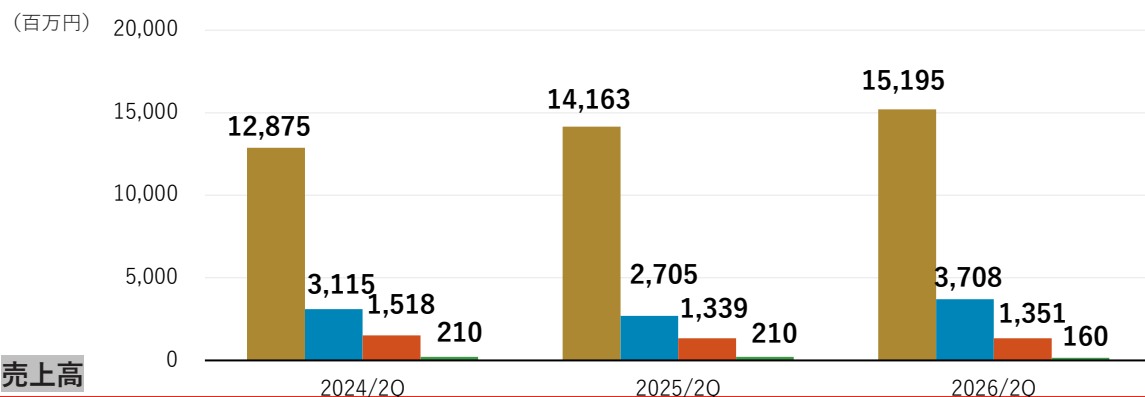
# 海外の売上高の状況



単位：百万円	2025年9月期 第2四半期実績		2026年9月期 第2四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
海外	4,066	22.2%	5,186	1,120	27.5%	25.5%
日本	14,236	77.8%	15,162	926	6.5%	74.5%

# セグメント別 業績概要

単位：百万円	2025年9月期 第2四半期 実績			2026年9月期 第2四半期 実績							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	前年同期比		売上高 構成比	営業 利益	前年同期比		営業利益 構成比
					増減額	増減率			増減額	増減率	
農林業用機械	14,163	76.9%	216	15,195	1,031	7.3%	74.6%	851	635	293.9%	45.7%
工業用機械	2,705	14.7%	423	3,708	1,002	37.1%	18.2%	807	383	90.4%	43.3%
その他の機械	1,339	7.3%	122	1,351	12	0.9%	6.6%	125	2	2.1%	6.7%
不動産賃貸他	210	1.1%	130	160	△49	△23.7%	0.7%	79	△50	△38.8%	4.2%
調整額 (セグメント間取引)	△116	—	△917	△66	50	—	—	△1,134	△216	—	—
合計 (うち海外)	18,302 (4,066)	100.0% (22.2%)	△24	20,349 (5,186)	2,046 (+1,120)	49.3% (+21.5%)	100.0% (25.4%)	729	753	—	100.0%

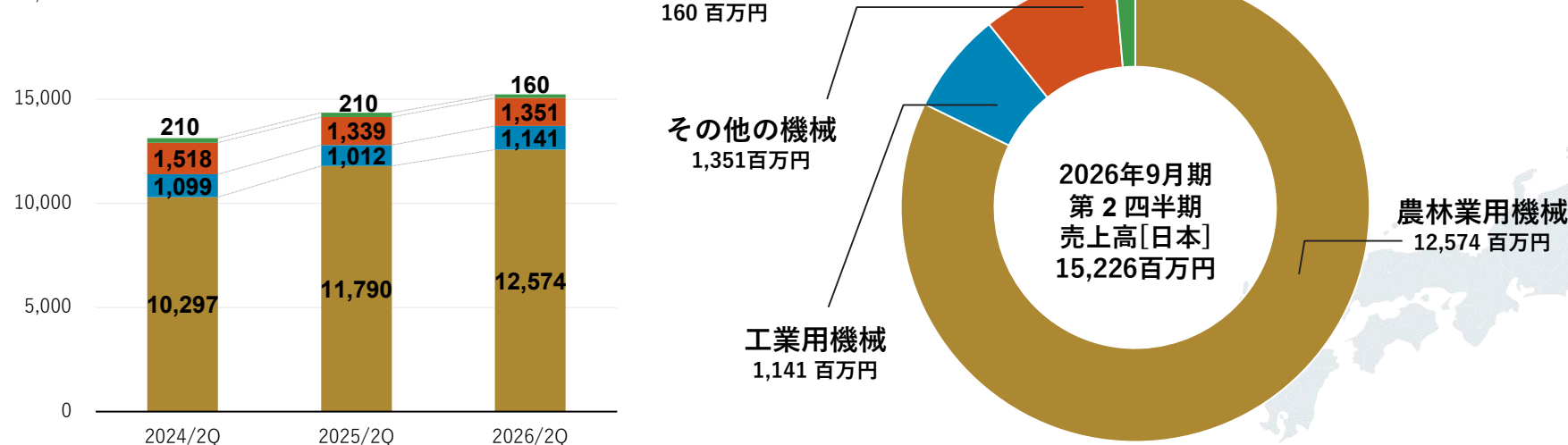


# セグメント別 売上高 [日本]

農林業用機械：動力噴霧機の増加  
工業用機械：工業用ポンプの増加

## 売上高

(百万円)



単位：百万円	2025年9月期 第2四半期実績		2026年9月期 第2四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
農林業用機械	11,790	82.2%	12,574	+784	+6.64%	82.6%
工業用機械	1,012	7.1%	1,141	+129	+12.7%	7.5%
その他の機械	1,339	9.3%	1,351	+12	+0.8%	8.9%
不動産賃貸他	210	1.5%	160	▲50	-	1.0%

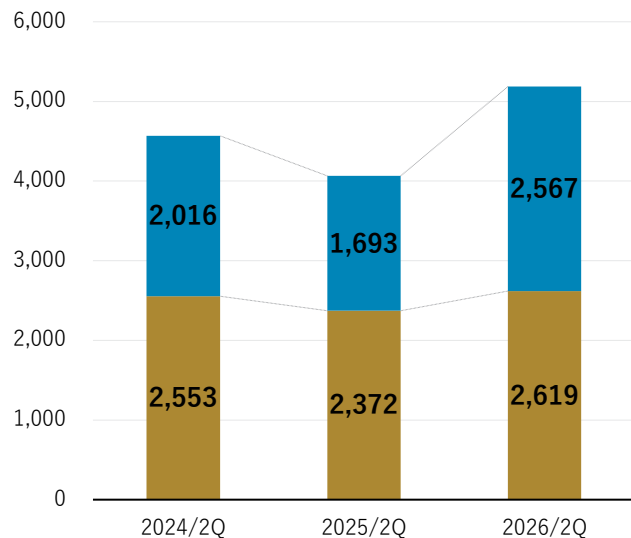
※セグメント別売上高はセグメント間取引を含んでおります。

# セグメント別 売上高 [海外]

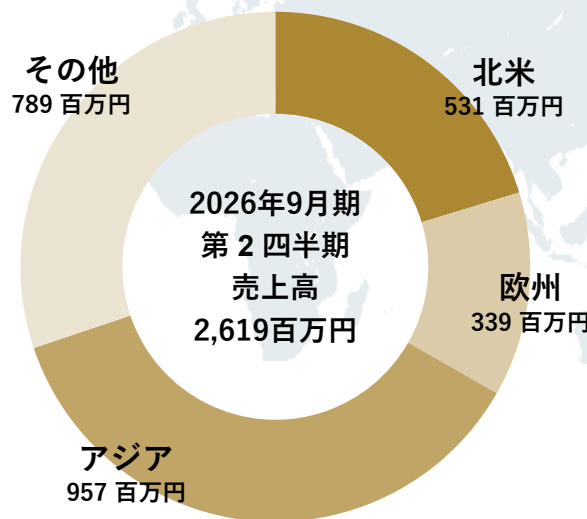
農林業用機械：動力噴霧機や刈払機の増加  
工業用機械：北米向け工業用ポンプの増加

## 売上高

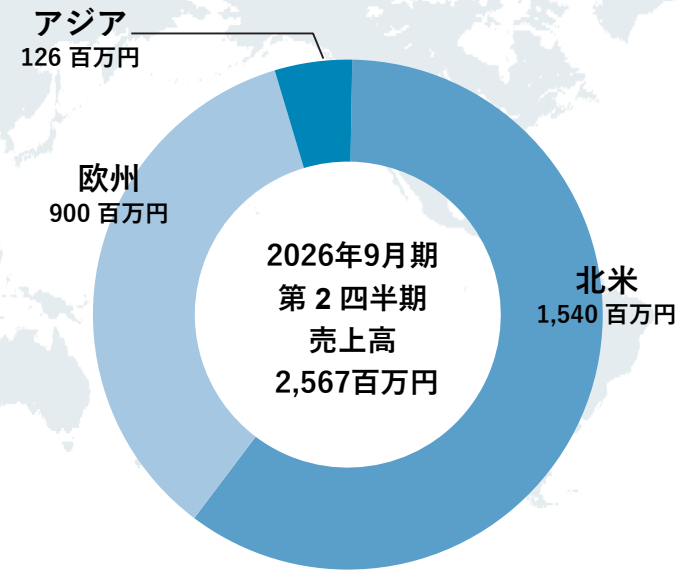
(百万円)



## 農林業用機械



## 工業用機械



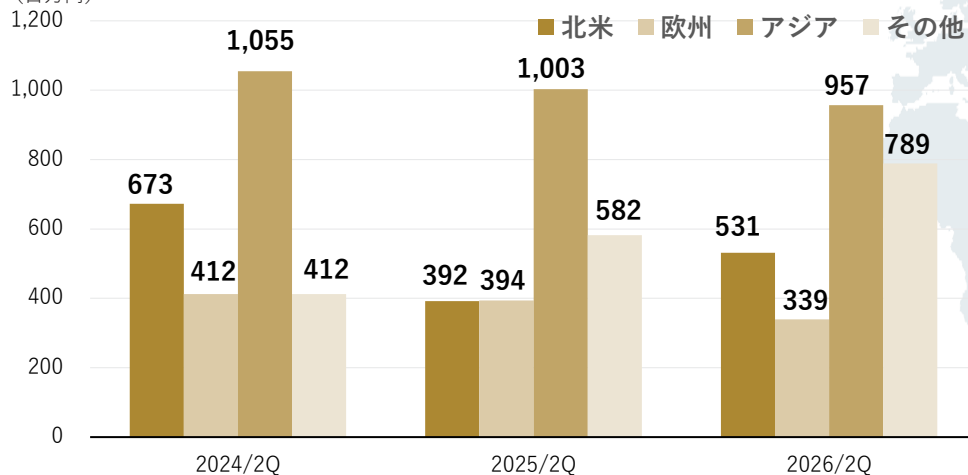
単位：百万円	2025年9月期 第2四半期実績		2026年9月期 第2四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
農林業用機械	2,372	58.4%	2,619	+247	+10.4%	50.5%
工業用機械	1,693	41.6%	2,567	+874	+51.5%	49.5%

※セグメント別売上高はセグメント間取引を含んでおります。

# セグメント別 売上高 [海外地域別]

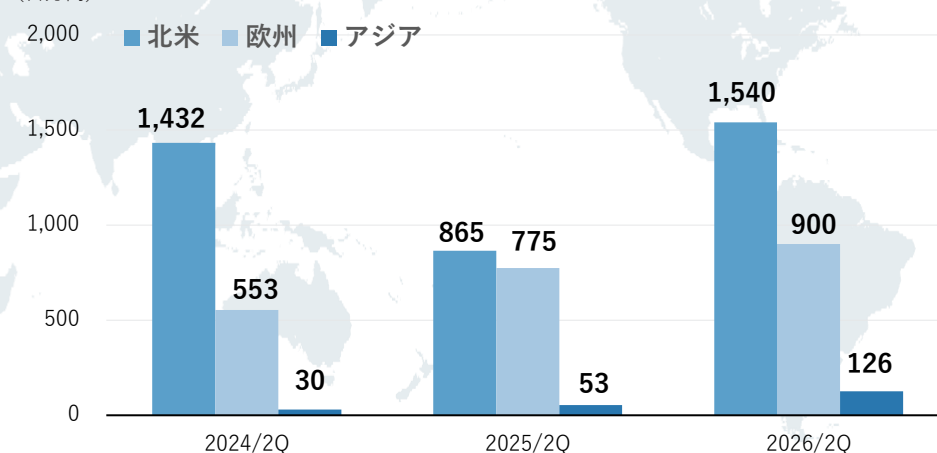
## 売上高 [農林業用機械 地域別]

(百万円)



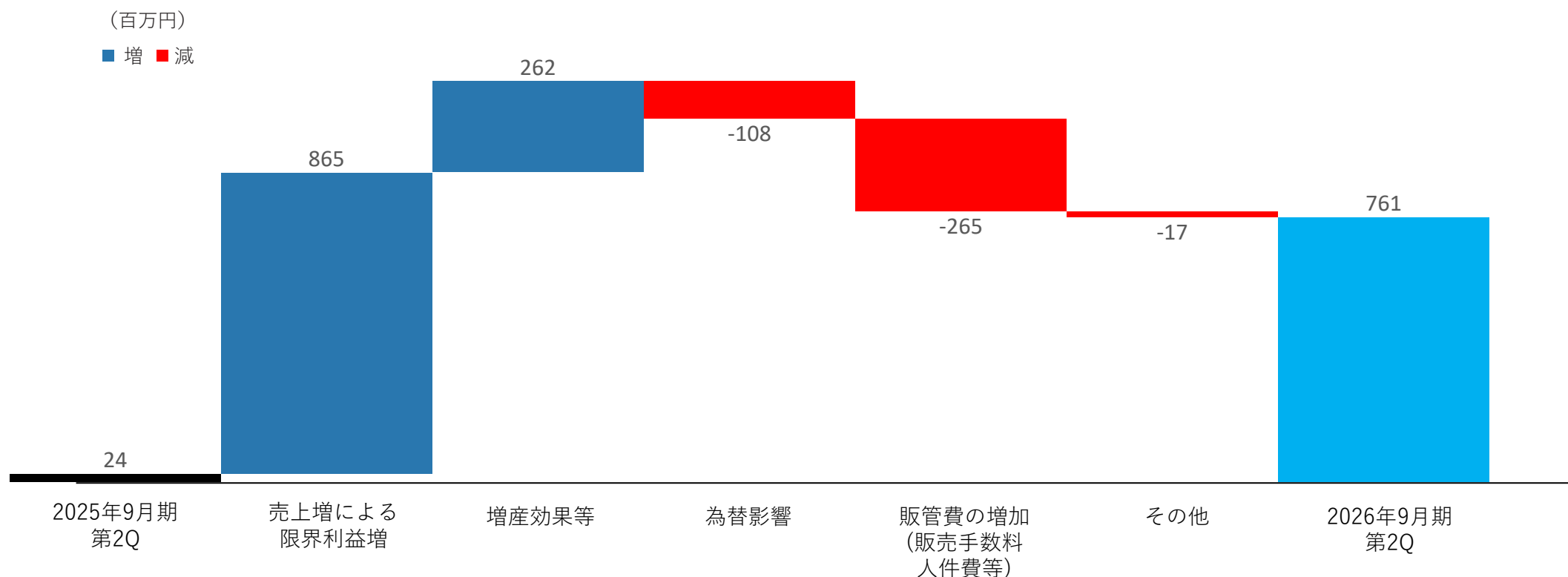
## 売上高 [工業用機械 地域別]

(百万円)



単位：百万円	2025年9月期 第2四半期実績		2026年9月期 第2四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比		売上高 構成比
				増減額	増減率	
農林業用機械	2,372	58.4%	2,619	+247	+10.4%	50.5%
北米	392	9.6%	531	+139	+35.4%	10.2%
欧州	394	9.7%	339	▲55	▲14.0%	6.5%
アジア	1,003	24.7%	957	▲46	▲4.5%	18.4%
その他	582	14.3%	789	+207	+35.5%	15.2%
工業用機械	1,693	41.6%	2,567	+874	+51.6%	49.5%
北米	865	21.2%	1,540	+675	+78.0%	29.7%
欧州	775	19.1%	900	+125	+16.1%	17.3%
アジア	53	1.3%	126	+73	+137.7%	2.4%

# 2026年9月期 第2Q増減益要因分析 [経常利益]



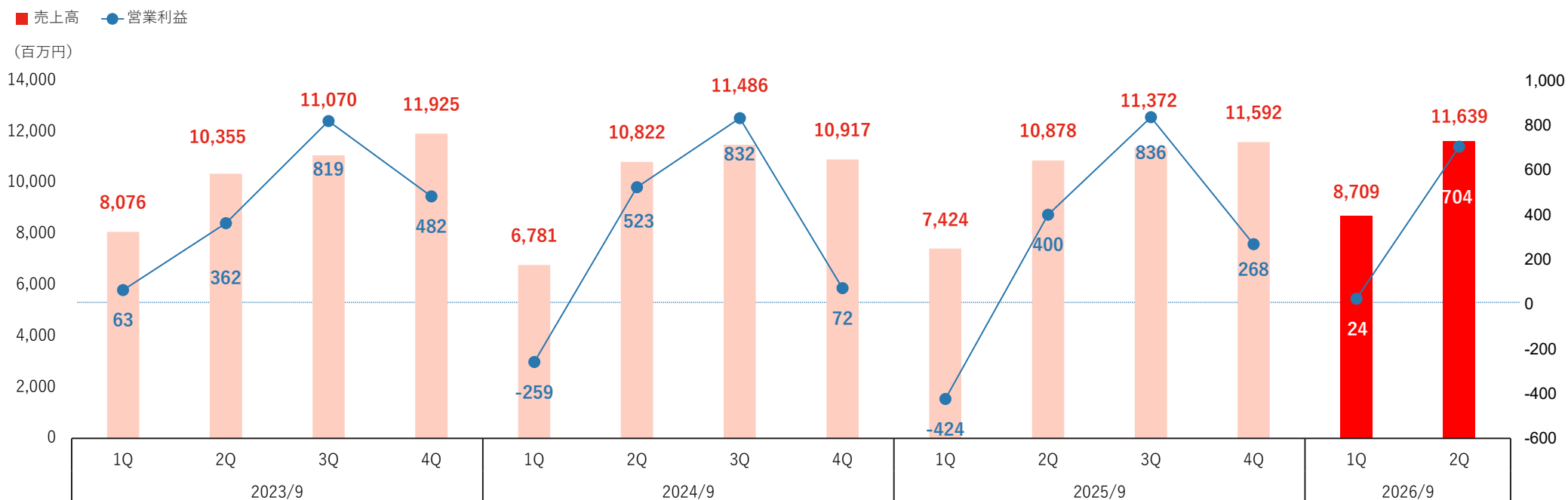
【+】 売上増の影響 (+865)、増産効果 (+262) が主な要因

【-】 為替影響 (-108)、販売管理費の増加 (-265) が主な要因

# 売上高・営業利益の推移 [四半期ベース]

売上高は 20,349 百万円 (前年同期比 11.2%増)  
 営業利益は 729 百万円 (前年同期比 2954.2%増)

※国内の農業用機械の需要期が3月から7月であるため、売上・利益ともに第1四半期は他の期に比べ少ない傾向にあります。





1

## 2026年9月期 第2四半期 業績概要

【2025年10月1日～2026年3月31日】

2

## 2026年9月期 業績・配当予想

【2025年10月1日～2026年9月30日】

3

## その他資料

財務諸表 等

# 2026年9月期 業績・配当予想

単位：百万円	2025年9月期 実績		2026年9月期 通期予想				2026年9月期 第2四半期実績	
	金額	売上高 比率	金額	前年同期比		売上高 比率	金額	進捗
				増減額	増減率			
売上高	41,266	—	42,000	+734	+1.7%	—	20,349	48.4%
営業利益	1,080	2.6%	1,500	+420	+38.8%	3.5%	729	48.6%
経常利益	1,173	2.8%	1,500	+327	+27.8%	3.5%	761	50.7%
当期純利益	743	1.8%	900	+157	+21.1%	2.1%	427	47.4%

## 【通期連結業績・配当予想】

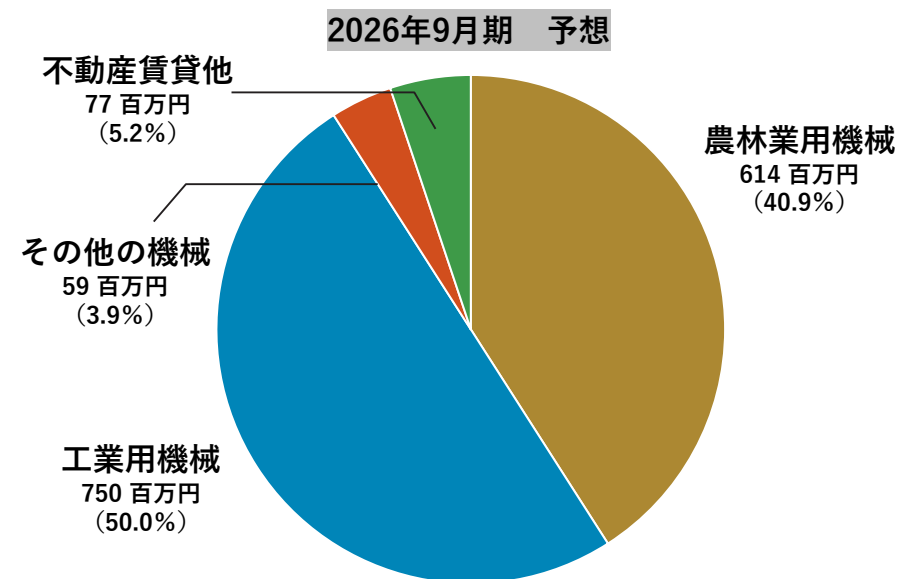
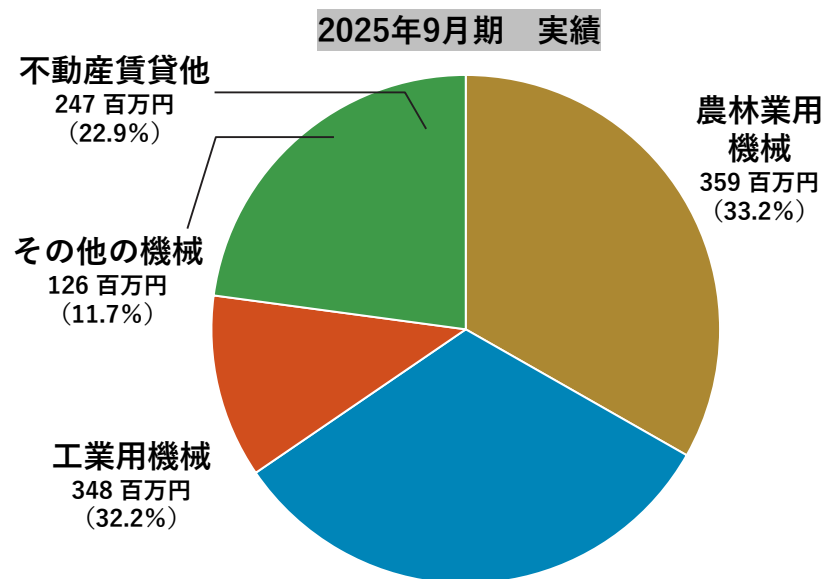
中東情勢による影響やコスト削減施策の進捗を見極めていく必要があるため、前回予想（2025年11月14日）は修正いたしません。

また、今期配当予想額（75円）につきましても、修正いたしません。

# 2026年9月期 セグメント別業績予想

単位：百万円	2025年9月期 実績			2026年9月期 予想							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	売上高 増減額	売上高 増減率	売上高 構成比	営業 利益	営業利益 増減額	営業利益 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	32,020	77.2%	1,309	32,150	+130	+0.4%	76.3%	1,350	+41	+3.1%	40.9%
工業用機械	6,581	15.9%	1,269	7,000	+419	+6.4%	16.6%	1,650	+381	+30.0%	50.0%
その他の機械	2,472	6.0%	126	2,680	+208	+8.4%	6.4%	130	+4	+3.2%	3.9%
不動産賃貸他	400	0.9%	247	300	▲100	▲25.0%	0.7%	170	▲77	+31.2%	5.2%
調整額 (セグメント間取引)	▲208	—	▲1,871	▲130	+77	—	—	▲1,800	+71	—	—
合計	41,266	100.0%	1,080	42,000	+734	+1.8%	100.0%	1,500	+420	+38.9%	100.0%

# セグメント別 営業利益予想



単位：百万円	2025年9月期 実績		2026年9月期 予想			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	359	33.2%	614	+ 255	+ 71.0%	40.9%
工業用機械	348	32.2%	750	+ 402	+ 115.5%	50.0%
その他の機械	126	11.7%	59	▲ 67	▲ 53.2%	3.9%
不動産賃貸他	247	22.9%	77	▲ 170	▲ 68.8%	5.2%

# 対処すべき課題

第8次中期経営計画達成に向け、4年目である2026年9月期は以下6項目を重点に活動しております。

重点項目		取組み内容	
①	海外市場の拡大	インド	2年程度で操業開始予定で大型防除機生産拠点工場を建設に着手 自社調達・自社生産・自社販売に向け活動を展開
		タイ	トータルコストダウンへの取組み、タイ国内での販売強化
		ベトナム	販売部門設置による新流通の開拓 2年程度で操業開始予定で部品製造、ポンプ組立拠点の新法人・工場の立ち上げ
		米国	大型防除機市場でのMARUYAMAブランドの確立
		コロンビア	現地法人設立による現地に根差した製品、サービスを展開
②	新市場 工業用機械市場の拡大	全営業所への専門担当者配置による工業用機械・ウルトラファインバブル市場の拡大	
		市場開拓を可能とする競争力ある製品の開発	
		ウルトラファインバブル製品の海外展開による、MARUYAMAブランドの向上	
③	品質向上 開発体制の整備	品質向上に向けた新製品・新規取扱部品に対する検証体制の整備	
		サプライヤー様と協業した品質向上への取組み	
		技術本部新設による、グローバル目線での製品の開発	
		スマート農業製品や将来の新市場を創る活動の展開	
		研究開発関連の更なる深耕を目的としたR&Dセンターを千葉工場内に建設	

# 対処すべき課題

第8次中期経営計画達成に向け、4年目である2026年9月期は以下6項目を重点に活動しております。

重点項目		取組み内容
④	人材活性化	個々の能力向上・行動改善
		心理的安全性を感じながら、働き甲斐と成長実感を得られる職場環境づくり
		組織風土改革と従業員満足度向上の実現
⑤	ガバナンス強化	BCM・BCP、製品安全・内部統制・コンプライアンスの体制強化
		グローバルでのグループ経営管理体制の高度化
		ITセキュリティリスク対策への取組み、サイバー攻撃への対応力強化
⑥	財務体質強化 デジタル強化	製品開発投資、設備投資、IT投資などの各投資の最適化
		製品・部品在庫の管理方法の見直しによる、在庫削減とキャッシュフローの改善
		技術本部を新設し、国内外の製品開発を統括し、グローバル目線での製品開発を実施
		在庫管理におけるデジタル化
		基幹システムの次世代化

## 2026年9月期通期達成への取り組み [国内]



### 【バッテリー製品の拡販】

新製品として、バッテリー刈払機2機種を発売いたします。刈払機を中心とした草物関連製品のラインアップ拡充を図るとともに、今後の成長分野であるバッテリー商材の強化を進め、売上の確保に努めてまいります。また、環境負荷低減への製品開発にも取り組んでまいります。



### 【洗浄機キャンペーンの展開】

高圧洗浄機購入者に対してカタログギフトを進呈するユーザーキャンペーンを9月まで実施いたします。需要を掘り起こし、市場及び販路の拡大を図ってまいります。

## 2026年9月期通期達成への取り組み [海外]

### 【工業用ポンプの受注拡大対応】



米国における工業用ポンプ市場好調を受けて受注が増えております。利益率が高く稼げる商材である工業用ポンプの販売機会を損失しないよう、生産工場において増産対応を実施し、拡販を図ってまいります。

### 【販売網の拡大】



タイ国において、シェアの低い北部での販売網構築に力を入れ、販売台数を増加させてまいります。  
また、昨年現地法人を設立したコロンビアにおいて、新規販売店の開拓と取引契約を進め、売上を拡大させてまいります。

## 2026年9月期通期達成への取り組み [利益]



### 【トータルコストダウン活動】

全社での取り組みとして行っておりますトータルコストダウン活動（製造、販売、経費、物流、管理コストの低減活動）を引き続き実行してまいります。



### 【製商品の値上げ】

中東地域における地政学的リスクの長期化により、国際的な資源および物流市場は不安定な状況が続いています。これに伴い、エネルギー資源を中心とした原材料価格は高止まりし、調達コストにも上昇圧力が生じています。調達先の分散化やコスト削減策を通じて影響の低減に努めていますが、引き続き外部環境を注視し、適時適切な値上げ対応を実施してまいります。

# サステナビリティへの取組

## 丸山製作所グループのサステナビリティ



当社は、サステナビリティ経営を中長期的な成長戦略の一環と位置付け、事業活動を通じた社会課題の解決と企業価値向上の両立を目指しております。

当中間期においては、コーポレートガバナンスの強化、情報セキュリティ対策、製品安全への取組、ハラスメント教育などを推進し、経営基盤の強化に取り組みました。

これらの活動を通じて、事業リスクの低減、顧客・取引先からの信頼向上、持続的成長に向けた競争力強化を図ってまいります。



1

## 2026年9月期 第2四半期 業績概要

【2025年10月1日～2026年3月31日】

2

## 2026年9月期 業績・配当予想

【2025年10月1日～2026年9月30日】

3

## その他資料

財務諸表等

# 貸借対照表

単位：百万円	2025年9月期 期末		2026年9月期 第2Q		増減額	主要因
	金額	構成比	金額	構成比		
総資産	39,101	100.0%	44,513	100.0%	+5,412	
流動資産	22,700	58.1%	26,340	59.1%	+3,640	売掛金の増加 棚卸資産の増加
固定資産	16,401	41.9%	18,172	40.9%	+1,771	投資有価証券の増加
流動負債	15,070	38.5%	18,646	41.8%	+3,576	支払手形及び買掛金、短期借入金の増加
固定負債	3,237	8.3%	4,280	9.6%	+1,043	長期借入金の増加
純資産	20,794	53.2%	21,585	48.6%	+791	その他有価証券評価差額金の増加 利益剰余金の増加

	2025年9月期 期末	2026年9月期 第2Q
自己資本比率	50.8%	47.9%
流動比率	150.6%	141.2%

# キャッシュフロー計算書

単位：百万円	2025年9月期 第2Q	2026年9月期 第2Q	増減額	変動要因
営業活動によるキャッシュフロー	▲739	▲3,652	▲2,913	棚卸資産の増加など
投資活動によるキャッシュフロー	▲1,413	▲1,049	364	有形固定資産の取得による支出の減少
フリーキャッシュフロー	▲2,152	▲4,702	▲2,550	
財務活動によるキャッシュフロー	761	5,042	4,281	短期借入金の増加など
現金及び現金同等物期末残高	3,072	3,904	832	

## [R&Dセンターの地鎮祭を開催]

当社は、2025年12月12日（金）、  
R&Dセンターの地鎮祭を執り行いました。

この重要な儀式である「地鎮祭」は、土地の神様に対して、  
工事の順調な進行や安全な施工、そして会社の繁栄を祈るもので、  
新たなる事業の成功を祈願いたしました。

場所：千葉県東金市小沼田  
当社千葉工場内

建屋完成予定：2026年12月  
運用開始予定：2027年 1月

これまで各事業部に分かれていた開発リソースを集約する事により、中期経営計画の基本方針である「成長事業の創出」に向けた製品開発、環境に対応した技術開発、自動化による効率的な開発を行うため、R&Dセンターを新設し、新製品および新技術の市場投入を加速させます。また環境に配慮し、魅せるR&Dセンターをコンセプトに、従業員が最大限に活躍できる環境を整える事で、創造性の創出および生産性の向上に努めてまいります。

【完成予想図】



## [MMT 過去最高生産台数達成]

MARUYAMA MFG (THAILAND) CO., LTD. は、来期で20期を迎えます。立ち上げ時は10名程でスタートしましたが、現在は150名という大所帯となりました。今期の生産台数は昨年度の29万台から増加し、35万台になる見込みとなります。日々改善を行い、増産に対応しております。

タイスタッフ一同、丸山グループの一員という事に誇りを持って生産活動を行っております。文化や言葉の違いはありますが、積極的に日本側との情報共有や交流を行い、日本同等の品質維持に努めております。

海外拠点のリーダーとして、今後の丸山グループを牽引してまいります。



# [経済産業省のAI構築プロジェクト「GENIAC PRIZE」に当社が応募いたしました]

当社は生成AIを活用した社内向けシステム開発に積極的に取り組んでいます。

中堅中小企業でAIを利用するにはまだまだ課題が多い状況ですが、社員が安心して利用できるAI環境の構築にチャレンジしています。

今回AI構築プロジェクトの成果を経済産業省の「GENIAC PRIZE」に応募いたしました。

今後はAIを活用した業務改善を進めてDX化を加速させていきます。

\* 「GENIAC PRIZE」とは、生成AIの社会実装を目的に経済産業省とNEDOが立ち上げたプロジェクトです。

**GENIAC PRIZE**

**領域01 国産基盤モデル等を活用した社会課題解決AIエージェント開発 I. 製造業の暗黙知の形式知化**

株式会社丸山製作所 / M-Innovations株式会社 / 株式会社リョーワ

## 中堅中小企業からはじめるリバースイノベーション

**会社概要**

農業用機械、環境衛生用機械、消防機械、工業用機械、洗浄用機械等の製造・販売  
売上412億円/年、東証スタンダード上場

**背景・課題**

知識・ノウハウ等の暗黙知の形式知化は、当社においても課題であり、その解決策としてAIの活用を検討した。

しかし、現在、提供されているAIサービスは、無償版は情報漏洩等のリスクが伴い、セキュリティが担保された有償版は全社的導入には高コストであることが確認された。

一方で、オープンソース化は、AIの領域にも広がり、無償で活用可能なAIモデルが多数公開されてきている。

これらを活用し、安価で安全なAI活用環境が構築できないかと考えた。

実現できれば、同様の課題に悩む中堅・中小企業のAI活用のモデルとなり、ソリューションの提供が出来ると考えた。

**問い合わせ先**

☎  
✉

**提案内容**

中堅中小企業のAI活用における3大課題（セキュリティ、パフォーマンス、コスト）を解決するAIエージェントを構築する。

- 国産/海外のOSS版LLMを活用したライセンスフリーの構築
- 社内クロス環境での構築により、情報漏洩リスクに対応
- 特許技術の活用によるLLM制御機能の実装

・ 中小企業が少ない業務工数で暗黙知を形式知化する以下の3つのエージェントを作成

- ①スタッフ系問合せ：メール情報等のナレッジ化により、組織横断的な回答を生成
- ②在庫分析：在庫の過不足に対するAIのレコメンドにより、状況認識・共有を促進
- ③入金突合：売上実績・入金データの自動比較でチェック時間が数分に短縮

規種類 → 利用者アプリ → 質問・指示 → OSS版LLM → 検索 → データ分析用データベース

問合せ・回答メール群 → 管理者アプリ → ナレッジ化 → OSS版LLM → ナレッジ蓄積 → ナレッジデータベース

## [工場参観デーを開催いたしました]

当社は、従業員のご家族の皆さまに当社事業およびものづくりへの理解を深めていただくことを目的に、工場参観デーを開催しました。

当日は製造工程の見学や製品の実演・体験会に加え、ランチ会を実施し、家族と一緒にワイワイと食事を楽しみながら交流しました。

お子さまを含む多くの方にご参加いただき、寄せられた声は従業員の励みとなりました。

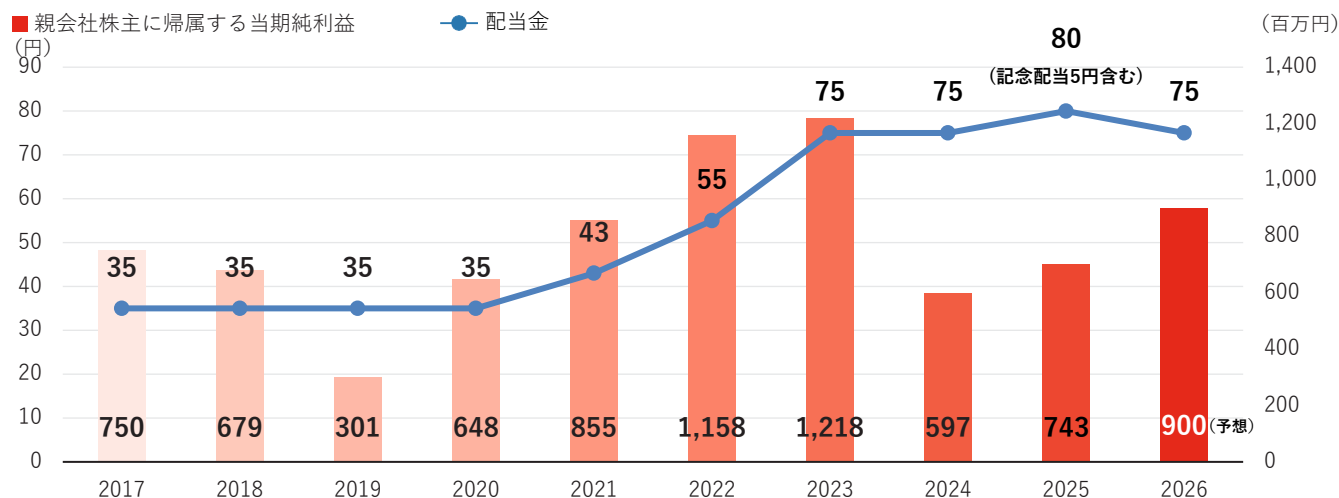
今後も中長期的な視点で価値創出に取り組み、社会に必要とされる企業であり続けます。



# 株主還元

- ・ 当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と位置づけ、将来の事業展開に必要な内部留保・各種投資、業績見込みを勘案したうえで、配当性向25%~30%を目安としつつ株主資本配当率（DOE）などの各種指標を加味し、安定的な配当を継続することを基本方針としております。また、健全な経営の維持と将来の経営環境への対応を勘案しながら、株主還元を更に充実させていくことは重要と捉え、今後、配当性向の向上、自己株式の取得、株主優待の充実に取り組み、長期安定的な配当水準の向上に積極的に努めてまいります。

## ・ 今期の配当予想額は 1 株につき 75 円



配当性向	22.9%	25.1%	56.1%	25.7%	23.5%	21.4%	27.1%	53.0%	43.5%	32.9%
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

ご参考 - 配当性向	記念配当含む	記念配当除く
配当金のみ	43.5%	40.8%
株主優待を含めた配当性向	45.8%	43.1%

ご参考 - 総還元性向	記念配当含む	記念配当除く
配当金額	323 百万円	303 百万円
自己株式取得総額	390 百万円	390 百万円
合計	714 百万円	693 百万円
総還元性向	96.1%	93.4%
	(株主優待を含めた場合)	
	98.4% (記念配当含む)	95.7% (記念配当除く)

# 株主優待

株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式に対する中長期的な投資魅力を高めることを目的として、株主優待制度を実施しております。

- ・ ESG活動の一環としてQUOカード1枚につき10円を社会貢献団体に寄付することとし、自然保護等に役立ててまいります。

## 【贈呈対象】

毎年9月30日の当社株主名簿に記載されており、100株以上の当社株式を1年以上継続保有されている株主様

継続保有期間	保有株数	株主優待
1年以上3年未満	100株以上	QUOカード1,000円分
3年以上5年未満	100株以上200株未満	QUOカード2,000円分
	200株以上	QUOカード2,500円分
5年以上7年未満	100株以上200株未満	QUOカード3,000円分
	200株以上	QUOカード4,000円分
7年以上	100株以上200株未満	QUOカード5,000円分
	200株以上	QUOカード6,000円分

注) 継続保有期間の確認にあたっては、3月31日及び9月30日の株主名簿に連続して記載される同一の株主番号の回数並びに各回において100株以上の確認を基準といたします。

- ・ 1年以上3年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続3～6回記載
- ・ 3年以上5年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続7～10回記載
- ・ 5年以上7年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続11～14回記載
- ・ 7年以上：株主名簿に100株以上の保有を、連続15回以上記載

注) 以下の場合株主番号が変わり、継続保有となりませんのでご注意ください。

- ・ 証券会社の貸株サービスを利用して貸株された場合
- ・ 保有株式を全て売却した後に買い戻した場合
- ・ 株式をお預けの証券会社を変更された場合
- ・ 名義変更などにより株主番号が変更された場合

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

### 【IRに関するお問い合わせ先】

株式会社丸山製作所  
人事総務部

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-15

E-mail : [ir-contact@maruyama.co.jp](mailto:ir-contact@maruyama.co.jp)